



大 船 山

ホームページ https://www.city.ena.lg.jp/enaschoolnetwork/e/kamiyahagi_1/index.html

第12号

令和8年1月26日

春を迎える準備

校長 高橋 かおり

始業式の日の朝、雪の積もったグラウンドを歩いていて、ハクモクレンのつぼみが膨らんできていることに気がきました。1年のうちでもっとも寒い大寒に向かう中でも、少しずつ春を迎える準備をしていることに自然の営みのたくましさを感じました。

毎日、子ども達が学校で過ごす様子を見ているのですが、似たような発見や驚きがあります。1年生の子達は、いつの間にこんなにはっきりと発言できるようになったのでしょうか？ 1学期は勢いよく手を挙げるけど、指名されるとモジモジ話していたのに……。仲間の発言を聞きながら、「私（のやり方）と、ちょっと違う…」とつぶやく子。自分の考えと仲間の考えを比較しながら聞く力は、いつの間についたのでしょうか？

2年生の教室に入ると、一人の子が担任とやり取りしながら算数の問題を解いていました。他の子は自分の力で問題に挑戦したり、早く終わったら別の問題に取り組んだりしています。あれ？ 少し前までは、どの子も担任に見てほしくて「先生！ 先生！」と取り合っていたのに。そう言えば、仲間と考えを交流するとき、以前は一方向的に話して終わっていたのに最近では聞き合っているな……。

3、4年生は複式学級です。同じ教室の中で違うことを勉強している仲間のことが気になっていた1学期。違う学年を担当が指導しているときは、ちょっとぼんやりしたり手が止まったりしていたような……。でも今はそんな姿は減り、見通しをもって学習を進める姿が増えてきました。いつの間に？ しかも、グループ交流のときには質問し合い、考え方が同じか違うか自分たちで判断しています。

メロディールームに入ると5、6年生がついたてをはさんで学習していました。担任は5年生の指導中。担任がホワイトボードに書きながら説明するのを聞く子、問題に取り組む子、解き終えて○付けをする子、それぞれの学習を進めています。ホワイトボードから離れた席の子が突然つぶやきました。「あ！ そういうことか。」と。自分で問題に取り組んでいたのですが途中で分からなくなったのでしょうか、担任の説明を聞いていたようです。つまづきを解消できたその子は、また自分の学習に戻りました。ついたての向こうでは、6年生もそれぞれに学習を進めています。「誰かにやらされる」のではない、「自分で取り組む」学習を。

このような子ども達の姿は、テストの点数に即座に表れるような学力ではありません。しかし、来年度からの完全複式学級での学びや、中学校の30人以上の学級での学び、さらに生涯学び続ける上でとても大切な「学びに向かう力」だと思います。前任の細江校長先生が、令和6年度最後の学校報で書かれていた「学びに対する主体性」「楽しく、豊かにそして貪欲に学ぶ姿」とは、このような姿をもっともっと追求した先にあるのではないのでしょうか。

次の春を迎える準備が、さまざまな場面で進められていることを感じる、今日このごろです。



雪をかぶったハクモクレン

2年生の
授業風景